



【第2回学校運営協議会】

令和2年10月29日（木）に第2回学校運営協議会を開催しました。全体協議会では、これまで行われた各ワーキング・グループの取組状況について報告があり、やしまブランディングプロジェクト（YBP）の発表ビデオの上映を全員で鑑賞しました。後半は各ワーキング・グループ毎に学校活性化のための熟議をしていただき、キーワードを発表していただきました。今後は、各ワーキング・グループに関連したキーワードを含めた協議を行うことを確認しました。また、第3回学校運営協議会は令和3年2月19日（金）14：30～16：30に実施することも確認しました。

令和2年度 秋田県立矢島高等学校 第2回学校運営協議会議事録

1 日時・場所

令和2年10月29日(木) 午後2時00分から午後3時30分まで
矢島高等学校 大会議室

2 出席者

(1) 運営委員

大井 建史 【天寿酒造株式会社代表取締役社長】
庄司 嘉政 【元矢島高等学校PTA会長】
松田 訓 【本海獅子舞番楽伝承者協議会会長、矢島高等学校同窓会前会長】
真坂 伸子 【矢島保育園園長】
小松 茂樹 【矢島高等学校同窓会顧問】
菅原 賢一 【矢島小支援地域本部コーディネーター】
茂木 好文 【矢島高等学校同窓会長】
茂木 雅人 【前矢島中学校PTA会長】
藤井 充晴 【矢島中学校教頭】
佐々木 誠 【矢島高等学校長】

※ 佐々木正純委員、佐藤真理子委員、小野文彦委員、佐藤嘉徳委員は欠席

(2) 矢島高等学校 [事務局]

木村実樹夫 【教頭】
高田宇一郎 【事務長】
菅原 一哉 【教諭】
高橋 晃二 【教諭】
湊 裕朗 【教諭】
辻 由紀子 【教諭】
木村ふさ子 【教諭】

※高田事務長、土田教諭は本日出張のため欠席

3 次第

(1) 開会 (事務局 教頭)

(2) 学校運営協議会会長あいさつ (大井会長)

皆様ご多忙の所参加いただきありがとうございます。この学校運営協議会も平成30年から始まり3年目になります。この協議会が出来て学校の運営に何かしらの影響を与えたものかなと思うわけですが、ただ学校を取り巻く環境については生徒数減、コロナ等により大きく変化している状況であります。世の中では大変大きな動きがあるなと思っていますが、そのような中であって矢島高校はこの地にあってもらわなくては困るという思いから設立されたのがこの会の始まりであったと今、思い返しています。

この地域、由利本荘市は非常に大きい面積をもっており、その地域的なバランスから考えても、進学できない、下宿をしないと高校に通えないというような環境を作ってはいけない。何より歴史を刻んできたこの矢島高校は残して欲しいというのが地域住民の願いでもあります。

人口減少が非常に早い勢いで進んでいる状況であります。学生が集まる学校とはどういふものかという部分をもっと考えていかなければいけないのではないかと考えております。魅力が無ければ学生は来ないということでもあります。地域的なバランスだけを考えていても難しい。ここに入ればどういふ魅力があるのか、いいことがあるのか。楽しいだけではなく何が出来るのかと言う部分、その魅力をどんどん振りまいて生徒数も増やしなから学校の勢いが見えれば、また明るい話題になっていくだろうと思っておりますので、みなさんと一緒に知恵を絞って頑張っていければと思っておりますので、今後ともよろしく願いいたします。

(3) 校長あいさつ

委員の皆様におかれましては第2回運営協議会に参加いただきありがとうございます。今年度は第1回の協議会が新型コロナウイルスの影響により書面での会議となったが、7月の下旬にかけて各WGの話し合いを実施していただいた。改めて御礼を申し上げたい。

新型コロナウイルスの感染状況について、県内は比較的小康状態ではあるが、県外ではクラスターが発生している所もあり、本県でも未だに予断を許さない状態にある。

学校に関しては教員の働き方改革とあわせて、新しい生活様式、新しい学習様式の工夫、特にパソコンやインターネットを使いたいいわゆるICT活用の推進が必要になっている。今年度は鳥海山登山や運動会の中止、外部講師の制限などなかなか例年通りの活動が出来ない状況が続いていたが、2学期以降はある程度活動できる状況になってきた。校内の授業についてはほぼ通常通り行われるようになってきている。

進路状況について、就職試験の開始が例年から1か月延期になり、今月の16日から解禁になっている。現在のところ3年生25名中、県外就職希望者の5名は全員内定を頂いている。県内就職については昨日までで3名の内定、進学希望者は7名中4名が合格決定している。全部で12名、3年生の約半数が内定または合格をいただいている。来週以降、また内定者・合格者数は増えてくると思われる。

さて、本校がコミュニティ・スクールになって今年で3年目に当たる。ここで改めてその目的について確認させていただきたい。お手元にある「矢島高校におけるコミュニティ・スクールの方向性について」という資料を御覧いただきたい。左下の部分にある「テーマ型コミュニティ・スクールとしてのコンセプト」、そこにあるように「地域の担い手としての貢献活動」と「伝統文化の保存や自然環境保護」を大きな柱として、学校所在地である矢島町の地域活性化に貢献するという。これは本校がこれまで取り組んできたことであるが、それを発展させながら生徒の学習活動を維持・継続するということが大きな目的である。これに関してはコミュニティ・スクールになって3年間、おおむね旨く機能していると思う。

もう一つ、本校のこれまでの取組を維持するために、矢島高校自体が存続できるということを考えること、これがもう一つの大きな目的だったと思う。

矢島高校の活動は地域の活性化を考えることであると同時に、矢島高校の存続は地域の高校を存続させるという地域課題でもある。学校と地域、双方の共通の課題解決に向けて意見交換ができればと考えている。

この会は本来であれば各WGの意見内容を全体で揉むという場ではあるが、本日はこの後本校の取組の柱であるやしまブランディングプロジェクトの生徒発表の様子を録画してあるので、それを御覧頂いた後に、各WGにわかれ、熟議形式で活発な意見交換をお願いしたい。本日はどうかよろしくお願いします。

(4) 出席者紹介

(5) 協議（進行 大井会長）

○各WGより協議報告

WG 1 協議について報告：湊教諭

WG 2 協議について報告：菅原教諭

WG 3 協議について報告：高橋教諭

※資料「ワーキング・グループ取り組み状況及び協議報告」

○やしまブランディングプロジェクトの発表ビデオの上映

○事務局より熟議の方法についての説明

○各WGでの協議

- ・各WGでの協議内容の全体報告は、「4 議事録」のとおり
- ・各WGの協議内容詳細は、「各ワーキング・グループ協議報告」のとおり

(事務局 教頭) 今回の協議内容を学校の方でとりまとめて、それぞれの各WGに話し合ってもらい課題を振り分けさせていただき、各WG内で協議していただくことになります。
(大井会長) それでは今回の協議については以上で終わりにいたします。

(6) 今後の予定について (佐々木校長より)

本日は活発な意見交換、本当にありがとうございました。今後については本日の内容をふまえて学校で振り分けを行い、再度具体的な内容などを12月中をめどに各WGで協議していただきたい。

今回は学校の存続に向けて学校の活性化についても考えていただいたが今年7月17日に、秋田県教育委員会から出された第7次秋田県高等学校総合整備計画の後期計画(令和3年度から令和7年度分)の素案に矢島高校の記載がある。

その前の前期計画(昭和28年度から今年度まで)の中では入学者数が募集定員の2/3以下の状態が2年間続いた場合、地域校化や募集停止等を検討するという基準があった。矢島高校は平成29年度から今年度まで4年間連続2/3以下が続いているが、この間コミュニティ・スクールを導入したという経緯もあり、この基準での検討は一切されていない。今回の後期計画素案では同じ基準だが、「この基準を一律に適用するものではない」という一文が追加されている。

本校については特別な事情があるとして、「将来的にも一層小規模化が進むことが予想されることを踏まえ、並行して地域の関係者や当該校と学校の活性化や今後の在り方について協議を行うものとする。」と示されている。これを受けて来月11月26日に県教育委員会主催による「学校の活性化を考える会」が本校で開催されることになっている。今回は地域の関係者として大井会長さん以外は現在の学校運営協議委員の方以外の方の出席をお願いしている。来年度以降もこの会が年2回開催される予定になっているが、来年度以降はこの学校運営協議会と合わせて開催出来ないか交渉している。

来年2月19日開催予定の第3回の学校運営協議会では今日の協議内容と来月11月26日の会合の内容を踏まえての協議となる。また、学校評価についてもお願いすることになるので、よろしくお願ひします。本日は有意義な意見交換ありがとうございました。

(7) 諸連絡

①第3回学校運営協議会の日程について（事務局 教頭）

令和3年2月19日（金）14：30～16：30に実施予定
協議会終了後に懇親会も17：30から予定

(8) 閉会（事務局 教頭）

4 議事録（各WGの協議内容報告）

WG1について

- ・地元企業との関係・連携を重視。できるだけ地元企業への就職や連携ができればよい。
- ・由利高原鉄道の利便性、料金に課題あり。金銭面での補助があれば使いやすさが向上する。行政との関わりも必要か。
- ・保・小・中・高で諸行事（運動会や防災訓練など）を一緒に行い、相互の連携を図る。
- ・少人数指導は学校のPRにもつながるのでもっとアピールをする。

WG2について

- ・地元企業との連携について、ICT機器などを活用しながら情報発信を行うと同時に、ビジネスコース以外の生徒にも商品開発などに関わっている企業の事を知る機会を持たせたい。
- ・PRの方法を工夫する。生徒からの発信が鍵。自分達と年齢が近い高校生からの話の方が中学生には伝わりやすいのではないか。
- ・少人数指導の強みを生かす。ICT機器等の活用で最新の指導、きめ細かい指導が出来るように。
- ・コースごとにどのような事ができるのか、3年間でどんな力が身に付くのかを伝える。
- ・部活動の拠点校化も考慮していくべき。（他の高校との関わりも考慮しながら）

WG3について

- ・外部への発信・生徒の確保が課題。矢島中学校はじめ地元の中学校へ矢島高校の良さを更に伝えていく。
- ・学校の取組もホームページだけではなく、様々な形で伝えていく必要がある。
- ・地域活性化については地域ガイドの拡充や地域の方を講師に迎えた授業などの実施。
- ・学校の方向生の問題。普通科では厳しいのではないか。酪農や林業・農業など地域の産業に根ざした方向のものを考えてみてはどうか。
- ・目指す生徒像について。こういう生徒になってほしいという明確な生徒像を持ち、その実現に向けて学校全体で指導を行う。

※資料「ワーキング・グループ取り組み状況及び協議報告」

令和2年度 秋田県立矢島高等学校
第2回学校運営協議会

ワーキング・グループ取り組み状況及び協議報告

令和2年10月29日

各WGの協議内容等について

秋田県立矢島高等学校

1. 昨年度の各WGの協議内容を踏まえた今年度の取り組み状況について

【WG1】

- ①新しいことには手を出さない。現在の取組の内容を充実させ、深く掘り下げる体験活動を模索したい。生徒数の減少に伴い、生徒会・ボランティア部主体から学年主体に移行しつつある。
鳥海探究での文化施設の見学の際は徒歩で移動しているが、往復の際にゴミ拾いを行うなど、ちょっとした機会にできる取組を増やしたい。
→ひまわりボランティア（3年）や文化施設見学（1年）の帰りにゴミ拾いを行っている。
- ②矢島カップでは、プラカード担当が司会に紹介されていなかったため、次回からは紹介してもらえよう支所に依頼した。
→今年度中止のため、次年度開催時に行っていただくように今年中に再度依頼する。
- ③広報については SNS で Facebook を運用中だが、新たに12月から Twitter も運用を開始したので、それを軌道に乗せたい。
→運用されているが、ボランティアの話題そのものが無くなっている。
- ④市の広報と一緒に全戸に配布している学校広報誌「日新」の利用を考えたい。年度初めにボランティアの年間計画を掲載したり、ボランティアに取り組む日を「矢島高校地域貢献デー」（仮名）と名付けてあらかじめ予告するなどが考えられる。
→ボランティアの年間計画表を作成し、菅原委員を通じて、各町内会長と行政協力員が集まる会で配付済み。学校HPにも掲載済み。
→HP更新計画を作成し、HPの更新を計画的に行っている。
- ⑤道徳教育の一環と捉え、事前・事後学習や振り返りを充実させて、意識を植え付けたい。
→今年度から全学年でキャリア・パスポートを活用し、学校生活・体験学習・授業の各領域での様々な活動に考えを持って主体的に取り組むために、見通しと振り返りを行いながら、意欲的に取り組む態度や能力の獲得に向けて取り組んでいる。

【WG 2】

①やしまブランディングプロジェクト（YBP）の取組について、由利高原鉄道の協力を仰ぐことを考えたい

- ・ 駅舎や列車内に広告を掲示
- ・ 特別列車のメニューにYBP開発商品を入れてもらう

→由利高原鉄道と協議中である。

→やしまブランディングプロジェクトのPR

- ・ フェイスブックのQRコードを、「日新」や学校案内に掲載している。
- ・ 高校説明会において、YBP関連の説明や資料を充実させている。

②YBPが賞をとった場合

- ・ 矢島中が大会結果等を掲示してある場所に同様に掲示（「東北大会出場！」等）
- ・ 栄光賞の一覧に付け加え、卒業式の要覧に添付する（出席者を通じてPR）
- ・ 新聞社への取材依頼をより積極的に行う

→今年度の大会は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となる。

→7月29日（水）の体験入学でYBPの商品開発の内容をプレゼンテーションした。また、教職員にもYBPへの理解を深めてもらうため、8月25日（火）にプレゼンテーションを行った。

【WG 3】

①番楽についての今後の取組

- ・ 「地域学」での取組は「鳥海探究」に引き継ぐ

→鳥海探究計画に入れ実施中。

- ・ 「まいーれ」での定期公演の鑑賞について

昨年度は日程や演目が決定するまで時間がかかり、実施の決定をするのがギリギリのタイミングであった。年間計画にあらかじめ入れるのは難しいので、様子をみながら検討することになる。実施の場合は、1・2年生全員を考えている。

→「まいーれ」は10月から公演できそうだ。昨年全校で鑑賞したことで道筋ができたので、継続して鑑賞を検討。8月下旬に年内公演中止決定。

③鳥海ダムに関する学習をどのように取り入れるか

- ・ 「鳥海探究」ではなく、1年次の必履修科目「科学と人間生活」の中で扱う。災害に関する単元があるので、そこで扱うのが妥当である。
- ・ 地域の方の講話を実施する場合は、人選等を学校運営協議会にお願いしたい。
- ・ 学習内容を最終的にレポート等にまとめたものを、矢高祭で展示する。
- ・ 次期学習指導要領の必履修科目「地理総合」でも防災に関する内容が予定されているので、将来的には分野を分けて2科目で扱うことも考えられる。

→1年生：科学と人間生活 2学期10月で扱う予定

【総合的な探究の時間「鳥海探究」について】

- ① 3年間を見通して、生徒が矢島に愛着をもてるような内容になるように随時検討していく。
- ② 外部講師を委員の方々に紹介して頂くことも予定している。
→ 9月11日（金）5・6校時に2年生「鳥海探究Ⅱ」で、「不思議がいっぱい、百宅ワンダーランド」と題して太田良行（NPO法人矢島フォーラム理事長）より講演していただいた。

【広報活動について】

- ① 昨年度の卒業式から、栄光賞やその年の3年生の活躍内容をまとめたものを、卒業式要覧に添付している。今年度も同様に実施する。
- ② 広報用看板の設置は「矢島高校を応援する会」の御厚意により設置場所の確保ができた。
- ③ 中学校における高校説明会資料と説明内容の見直しを行っている。

学校運営協議会 WG1 協議報告

日 時：令和2年7月31日（金）13：00～14：00

場 所：応接室

出席者：委員 菅原賢一（WG1代表）、真坂伸子、小松茂樹、佐々木正純、藤井充晴

職員 湊裕朗、辻由紀子、佐藤俊治、黒木仁美 ※黒木育子、鎌田勉は欠席

協議内容：ボランティアの取組について

◇今年の活動状況

- ・昨年度1月の除雪は雪が少なくて実施せず、3月のひな街道・ひなめぐりは、コロナ感染症対策のために実施できなかった。今年度の地域の行事も、矢島カップ鳥海バイシクルクラシック大会をはじめ多くが中止となり、予定していたボランティア活動はほとんど実施できていない。
- ・6月3日のひまわりプロジェクトボランティアは実施できた。

◇コロナ禍の下でどのような活動ができるか

- ・今まで続けてきたノウハウや絆は持続したいが、受け入れ側の不安もあるためお願いしづらい。
- ・少人数のボランティア部員でできることは限られるので、学年や学校全体などでできることを考えていけばどうか。
- ・除雪などは、運営協議会のメンバーがOBなど地域の人に声をかけて集めて、高校生と一緒に活動することも可能だと思われる。
- ・予定している活動ができないなら、生徒たちにやりたいことはあるのか聞いてみて、これまでと違う新しいことをやってみようか。生徒たちがやりたいことややれることについて考えて、その中から先生たちが現実味のあることを判断して実施すればよい。そうすれば「やらされ感」をなくすことにもつながると思う。
- ・学校外の活動が無理ならば、校内の窓ふきなど学校内でできることでも。

◇ボランティアの意識をどのように育てるか

- ・生徒たちが「地域の力になりたい」「貢献している」という気持ちを持てるように、心の教育の充実を図るべきである。
- ・毎年の恒例行事としてやっていて教員が意義やいきさつをあまり知らないという場合もあるので、行事の担当責任者から事前指導をいただくとありがたい。また、町の人たちから感謝される機会があると生徒たちのやりがいにもつながるので、大人からの生徒たちへの直接の声かけもほしい。

学校運営協議会 WG 2 協議報告

日 時：令和2年7月21日（火） 16：00～17：30

場 所：応接室

出席者：委員 大井建史、庄司嘉政(WG2代表)、小野文彦、佐藤嘉徳（欠席）

職員 菅原一哉、土田伸也、尾留川徹、靱山英輝、小園直子、佐藤文明（欠席）

協議内容

①YBP（やしまブランディングプロジェクト）の取組について

- ・由利高原鉄道との協力について検討中。
- ・地元とのコラボレーション商品開発で昨年度は大きな成果を挙げた。
- ・今年度は新型コロナウイルスの関係で対外活動がなかなかできないため、社会貢献的な活動を行うことも考えている。
- ・新メニューを考案したい。
- ・今年から来年にかけて矢島に観光客を呼び込む予算が大きく下りる予定。矢島のお土産として購入できるものを考案・販売するのはどうか。
- ・地元のものを使って販売できるもの、お土産として持って帰ることができるもの、通信販売などで買えるものなどの視点で取り組んでみては。
- ・PRの工夫も必要。新型コロナウイルスの影響で今まで通りのイベント開催は難しい。
- ・リモートの活用。動画等を撮影し、それを流すことでPRしてみてもどうか。
- ・YBPでは過去に様々な商品を開発しているが、長く続けていける商品を開発することも重要だと思う。イベントの販売のみではもったいない。
- ・今までYBPでは地元企業との協力を中心に考えてきた。今後は秋田市内の企業とのコラボも検討していきたい。
- ・商品については、季節的な問題や生産的な問題があり、なかなか安定して供給できない商品もある。
- ・コンビニは売れなくなるとすぐ供給をストップするので、長期的に販売するのはかなり大変。
- ・商品開発の話が中心になっているが、矢島高校を残すための取組としては商品開発→販売だけではなかなか生徒を集めることはできない。
- ・PR活動については、WG2だけでなく、他のWGとも話題を共有して取り組んでいく必要がある。番楽やボランティア、YBPの活動等も含め、何を矢島高校の魅力として伝えていくか検討。
- ・生徒数に対する先生の数が多い事もアピールポイントである。その利点をどういかせるかを考える。（少人数だから進学希望者には細やかな指導、就職希望者にはしっかり個別に対応など。）
- ・本校は部活動が少ないため、部活動をやりたい生徒はどうしても他校に流れる率が高いが、本校でもバドミントンなどは優秀な成績を修めているので、そういう部分もPRしていければ良い。

②その他の議題

- ・鳥海探求について、今年度は2年生の活動の2学期以降の活動で、地域の事をグループ別に調べる活動が入る予定。ひなめぐりや番楽、ジオパークや食文化について生徒が話を聞ける人がいれば紹介していただきたい。
- ・鳥海山一つ取っても、信仰・動植物・登山など、多様なジャンルに分かれるし、それについて話せる人はいる。要請があれば声をかけたり紹介することは可能。
- ・由利中のCSでは一般の人も交えて意見交換等を行っている。矢島高校にも一般の人が意見を述べたり、参加したり出来る場はあるか。
- ・今年度は有志の方々による「矢島高校を応援する会」が立ち上がり、高校の側でも何度か話し合い・会合に参加している。そのような所から間口を広げていけると思う。

○今後の議題として

- ・由利高原鉄道との協力体制を模索
- ・学校の強みを活かしたPR活動（少人数制・進路指導・ボランティア活動等）
- ・教育カリキュラムの検討（地域人材をいかした授業・活動）
- ・地域との連携・情報・課題の共有

学校運営協議会 WG 3 協議報告

日 時：令和2年7月21日(火) 14:00～15:30

場 所：応接室

出席者：委員 松田 訓(WG3代表)、茂木好文、佐藤眞理、茂木雅人

職員 高橋晃二、木村ふさ子、大石敏孝、佐藤 協、佐々木 徹

協議内容

①番楽についての今後の取組

本当は保存会のメンバーが学校に来て「踊り」「笛」「太鼓」に分けて指導できればいいのだが、全員現役(仕事・現場)があり、平日はなかなか難しい。昨年の生徒は非常に良かったので、彼らが後輩に伝えていくような体制にしてもらえると良い。

そもそも番楽は伝承芸能なので、伝えることで習得が深化するので、そのような形が望ましい。1年生も早くから番楽を知る機会を設けて関心を持たせた上で、2年生で実演して、3年生になったら指導するということができると良い。部活動のような感じが一番良い。

「まいーれ」については昨年全校で鑑賞して道筋ができたので、継続して鑑賞してほしい。

②鳥海ダムに関する学習をどのように取り入れるか

ダムに関しては国交省の鳥海ダム工事事務所に相談するのが早い。

実際に行って、ダムの底に沈む前の百宅を見ることに価値があるのではないかと。講師としてNPO法人矢島フォーラムの太田良行さんが詳しい。

→太田さんからは、ガイドの手配などの協力をするので、ぜひ百宅里歩きに来て欲しいとの言葉をいただいています。

その他

鳥海山国際禅堂にぜひ行って見てください。

「鳥海山国際禅堂」は、矢島町にある曹洞宗「高建寺」が、「禅」の普及を図るために、寺から6km離れた坂之下の高台に平成18年(2006年)7月に建立されました。

次回のWG3開催日程 12月4日(金) 14時～ (定期考査期間中)